

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画				
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数			実施内容	
1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解		
			通学	通信	合計	
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	3	0	3	(1) 講義のみ
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3	0	3	講義及び演習 介護現場紹介のDVDを視聴、居宅サービス・施設サービスそれぞれの長所・短所についてグループディスカッションを行い、サービスについての理解を深める。
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援		
			通学	通信	合計	
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	1.5	3	4.5	講義・演習及び通信講習 利用者の生活における、介護職員による人権侵害の可能性についてグループで話し合い発表することで、人権についての理解を深める。
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	0	4.5	4.5	(2) 通信講習のみ
3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本		
			通学	通信	合計	
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	0	1	1	(1) 通信講習のみ
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	3	0	3	講義及び演習 どんな介護職員になりたいかについてグループで話し合い、他のグループと共有することによって、自身の視野を広げ、介護職の理想像をイメージできるようにする。
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	0	1	1	(3) 通信講習のみ
(4) 介護職の安全		(4) 同左	0	1	1	(4) 通信講習のみ
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		
			通学	通信	合計	
(1) 介護保険制度		(1) 同左	1.5	2	3.5	講義・演習及び通信講習 身近な高齢者の生活での困ったことをグループで出し合い、介護保険制度の必要性を理解する。
(2) 障害福祉制度及びその他制度		(2) 同左	0	2.5	2.5	(2) 通信講習のみ
(3) 医療との連携とリハビリテーション		(3) 同左	0	3	3	(3) 通信講習のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術		
			通学	通信	合計	
(1) 介護におけるコミュニケーション		(1) 同左	3	0	3	講義及び演習 具体的な事例を用いて家族が抱きやすい葛藤についてグループワークで話し合い、介護におけるコミュニケーションや相談援助の必要性について理解を深める。
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション		(2) 同左	0	3	3	(2) 通信講習のみ
6 老化の理解	6 時間	6 老化の理解	6 時間	6 老化の理解		
			通学	通信	合計	
(1) 老化に伴うこころからだの変化と日常		(1) 同左	3	0	3	講義及び演習 老いるとはどういうことかについて、社会的、身体的、精神的、知的側面からグループで話し合い、老化に伴う変化を理解することの重要性と継続的に学ぶことの必要性への気づきを促す。
(2) 高齢者と健康		(2) 同左	0	3	3	(2) 通信講習のみ
7 認知症の理解	6 時間	7 認知症の理解	6 時間	7 認知症の理解		
			通学	通信	合計	
(1) 認知症を取り巻く状況		(1) 同左	1	0	1	講義及び演習 認知症の人に対するイメージについて、グループで話し合い介護職として認知症を学習することの必要性への気づきを促す。
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		(2) 同左	0	2	2	(2) 通信講習のみ
(3) 認知症に伴うこころからだの変化と日常生活		(3) 同左	2	0	2	(3) 講義のみ
(4) 家族への支援		(4) 同左	0	1	1	(4) 通信講習のみ
8 障害の理解	3 時間	8 障害の理解	3 時間	8 障害の理解		

	通学	通信	合計	
(1) 障害の基礎的理解				(1) 通信講習のみ
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	0	0.5	0.5	(2) 通信講習のみ
(3) 家族の心理、かかり支援の理解	2	0	2	講義及び演習 自分の家族が障害を抱えたらどのような葛藤が起きるかグループで話し合い共有することで、家族の心理についての理解を深める。
9 ころとからだのしくみと生活支援技術 75 時間	9 ころとからだのしくみと生活支援技術 75 時間			9 ころとからだのしくみと生活支援技術
ア 基本知識の学習 10~13時間	ア 基本知識の学習 10 時間			ア 基本知識の学習
	通学	通信	合計	
(1) 介護の基本的な考え方	2	1	3	講義・演習及び通信講習 (1) 介護技術の根拠となる人体の構造や機能をなどの基礎知識を理解する
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解	2	1	3	講義・演習及び通信講習 (2) 学習、記憶、感情、意欲、自己概念にたいしての理解を深める
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	2	2	4	(3) 講義及び通信講習 体の動きのメカニズムや神経などの働きを理解する
イ 生活支援技術の講義・演習 50~55時間	イ 生活支援技術の講義・演習 53 時間			イ 生活支援技術の講義・演習
	通学	通信	合計	
(4) 生活と家事	0	4	4	(4) 通信講習のみ
(5) 快適な居住環境整備と介護	0	4	4	(5) 通信講習のみ
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	0	6	講義及び実技演習 (6) 2人1組で、顔拭きの介護、衣服の着脱(一部介助、全介助)を実技演習する。
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	12	0	12	講義及び実技演習 (7) ボディメカニクスの実践、立位の介護、ベッド上での体位変換の介護、移乗介助(一部介助・全介助)、杖歩行介助、車いす移動介助の実技演習をする。
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	0	6	講義及び実技演習 (8) 2人1組で、食事の介護、飲水の介護、口腔ケアの介護の実技演習をする。
(9) 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	0	6	講義及び実技演習 (9) 入浴の介護(全身浴・半身浴と浴槽への出入り)、足浴の介護、臥床状態での洗髪の介護、全身清拭の介護の実技演習をする。
(10) 排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	0	6	講義及び実技演習 (10) 2人1組で、おむつ交換(陰部洗浄含む)、ポータブルトイレ介助の実技演習をする。
(11) 睡眠に関したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	0	6	講義及び実技演習 (11) ベッドメイキング(空きベッド・利用者が臥床している状態)の実技演習をする。
(12) 死にゆく人に関したころとからだのしくみと終末期介護	3	0	3	(12) 講義のみ
(実習)* (50~55時間中12時間以内)	0 時間			(実習)*
介護実習 ○時間				
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間				
在宅サービス提供現場見学 ○時間				
ウ 生活支援技術演習 10~12時間	ウ 生活支援技術演習 12 時間			ウ 生活支援技術演習
	通学	通信	合計	
(13) 介護過程の基礎的理解	6	0	6	(13) 講義及び実技演習 事例にもとづき、個別援助計画の作成演習を行う。
(14) 総合生活支援技術演習	6	0	6	講義及び実技演習 (14) 2つの事例にもとづき、一連の介護技術を行い、技術習得度の評価を受ける。
10 振り返り 4 時間	10 振り返り 4 時間			10 振り返り
	通学	通信	合計	
(1) 振り返り	2	0	2	講義及び演習 グループごとに研修前に描いていた介護のイメージと、研修を通じた介護のイメージの変化について話し合い、その変化の理由を考え、学習することの必要性の理解を促す。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	0	2	(2) 講義のみ
追加カリキュラム 時間				
計 (130 時間)	計 (130 時間)			

※「9ころとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。